

# 看護基礎教育における「がん看護学」に関する教育評価

飯野京子<sup>1</sup> 岡本隆行<sup>2</sup> 小熊亜希子<sup>1</sup> 小西敏子<sup>1</sup> 島崎たか子<sup>1</sup>  
 鈴木真理子<sup>1</sup> 須原弥生<sup>1</sup> 瀬戸てるみ<sup>1</sup> 丸口ミサエ<sup>1</sup>

1 国立看護大学校；〒204-8575 東京都清瀬市梅園 1-2-1

2 国立看護大学校研究課程部

iinok@adm.ncn.ac.jp

## Educational Evaluation of a Cancer Nursing Program

Keiko Iino<sup>1</sup> Takayuki Okamoto<sup>2</sup> Akiko Koguma<sup>1</sup> Toshiko Konishi<sup>1</sup> Takako Shimazaki<sup>1</sup> Mariko Suzuki<sup>1</sup> Yayoi Suhara<sup>1</sup> Terumi Seto<sup>1</sup>  
 Misae Maruguchi<sup>1</sup>

National College of Nursing, Japan ; 1-2-1 Umezono, Kiyose-shi, Tokyo, 〒204-8575, Japan

【Keywords】 教育評価 educational evaluation, がん看護学 cancer nursing, がん看護学実習 cancer nursing practicum

### I. はじめに

A 大学では、政策医療看護学として、がん医療の専門的な看護を展開する基礎的能力、特に、先駆的な医療や国内外のがん看護の動向を鑑みた看護を展開する能力を涵養するための教育プログラムを作成し、実施している。そして、このための特徴的な教科として、「高度先駆的医療看護（がん看護）」（30 時間）があり、学生はここでがん看護の特徴を学習したうえで、「政策医療看護学実習（がん看護実習 A / B）」に臨んでいる。がん看護は、看護学生にとって、特徴的な治療への看護に加え、特に患者の心理・社会面の情報を統合した判断が求められる看護領域であり、患者を理解し、適切な看護介入への意思決定を学習することが求められる。また、実習におけるケアの対象が、がん告知され侵襲的な治療を受けているうえに、実習施設が先駆的医療施設であり、臨床試験、造血幹細胞移植、陽子線治療など、研究的・先端的な医療が実施されていることから、学生は、履修上、多くの困難を経験している。A 大学におけるこの教育プログラムは実施後 3 年が経過しており、これまでの経験と学生の評価をもとに再考する時期にきている。

今回、A 大学における「がん看護」に関する教育プログラムを再考するためには、学生が体験している困難や、目標達成のために効果的であった事柄などを明らかにしていく必要があると考え、本研究を実施した。

### II. A 大学の「がん看護」教育における「高度先駆的医療看護（がん看護）」「政策医療看護学実習（がん看護実習 A / B）」の位置づけ

「がん看護」教育は、図 1 に示すように、「成人看護」のみにとどまらず、成長発達段階を横断的に視野に入れていること、政策医療看護学としての内容を含む科目であることが特徴である。がん看護に関する内容は、2～3 年次の成人看護学概論、成人看護援助論に含まれている。また多くの学生が、急性期・回復期・慢性期看護学実習、ターミナルケア実習においてがん患者のケアを経験する。そのうえで、4 年次に「高度先駆的医療看護（がん看護）」として 30 時間の講義を受け、その後、助産選択者以外は「政策医療看護学実習」に臨む。実習は、必修科目である「がん看護実習 A」2 単位と、学生の 65% が選択する「がん看護実習 B」2 単位から成る。「高度先駆的医療看護（がん看護）」

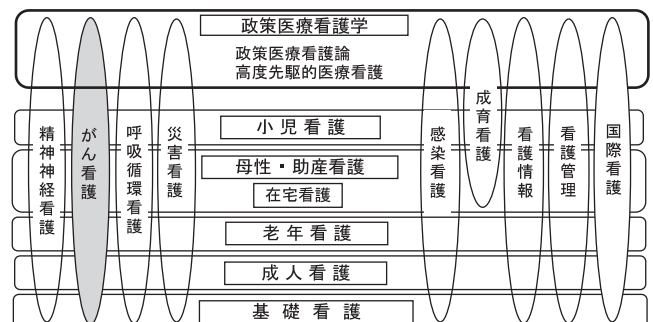


図 1 政策医療看護学「がん看護」の位置づけ

表 1 政策医療看護学「がん看護」に関する教育内容

【講義：高度先駆的医療看護 がん看護】

期日：4年次前期 必修科目 30時間

担当教員：A 大学教員 4名 臨床教員：4名（がん専門病院の看護師併任）

目標

1. 政策医療において、先駆的・モデル的医療を展開しているがん医療の特徴について理解できる。
2. がん医療を受けている対象の特徴を理解できる。
3. がん看護の特徴を理解できる。

授業内容

- 1) がん医療に関する政策
- 2) がんの基礎知識，がんの予防・検診，診断，治療の動向
- 3) がん治療を受ける患者の特徴と看護
  - (1) がん薬物療法を受ける患者の特徴と看護（がん化学療法，分子標的療法など）
  - (2) 放射線療法を受ける患者の特徴と看護
  - (3) 手術療法を受ける患者の特徴と看護
  - (4) IVR を受ける患者の特徴と看護
  - (5) 通院治療を受ける患者の特徴と看護
- 4) 緩和ケア
- 5) がんリハビリテーションと看護
- 6) 臨床試験のシステム，患者の特徴と看護
- 7) がん患者とのコミュニケーション

【実習：がん看護実習 A】

期間：4年次前期 必修科目 がん専門病院 A にて 2 単位 2 週間

実習目標

1. 先端のがん医療における看護の特徴について理解できる。
  - 1) がんの集学的治療と看護の特徴について理解できる。  
手術療法，放射線療法，薬物療法（化学療法・分子標的療法・治験など），造血幹細胞移植，緩和的治療（薬物療法，放射線療法など）のいずれかを選択し，受け持ち患者を通して学ぶ。
  - 2) がんの集学的治療を行うためのチームアプローチについて理解できる。
  - 3) 放射線治療部門がんの集学的治療を行うための治療の場について理解できる。
2. がんの政策医療における看護の特徴について，自分の考えを述べることができる。

【実習：がん看護実習 B】

期間：4年次前期 選択科目 がん専門病院 B にて 2 単位 2 週間

実習目標

1. がん患者の治療・看護について理解できる。
  - 1) 受け持ち患者の病態，治療を理解し，看護計画を立案できる。
  - 2) 外来受診時の患者の心理や問題点が理解できる。
2. 先駆的ながんの診断，治療とそれに伴う看護について理解できる。
  - 1) 陽子線治療，ポジトロン検査，内視鏡検査・治療とその方法，それに伴う看護について理解する。

実習目標

1. がん患者の治療・看護について理解できる。
  - 1) 受け持ち患者の病態，治療を理解し，看護計画を立案できる。
  - 2) 外来受診時の患者の心理や問題点が理解できる。
2. 先駆的ながんの診断，治療とそれに伴う看護について理解できる。
  - 1) 陽子線治療，ポジトロン検査，内視鏡検査・治療とその方法，それに伴う看護について理解できる。

および「がん看護実習 A / B」の科目の概要を表 1 に示す。

実習目標は、がん看護実習 A / B とも「がん看護」に関する特徴を理解できることを挙げているが、必修科目であるがん看護実習 A は政策医療看護学としての本科目の位置づけから「がんの政策医療」における看護の特徴について理解することも含まれている。

### Ⅲ. 研究目的

①看護学生の「政策医療看護学実習（がん看護実習 A / B）」における実習目標達成や学生の満足度に影響する事柄を明らかにする。

②看護学生が政策医療看護学実習（がん看護実習 A / B）の実習目標を達成するために体験した困難および効果的であった要因を明らかにする。

以上の 2 点から、「高度先駆的医療看護」および「政策医療看護学実習（がん看護実習 A / B）」の教育プログラムを再考し、改善策への示唆を得る。

### Ⅳ. 研究方法

#### 1. 質問紙調査

##### 1) 対象者

A 大学において「高度先駆的医療看護（がん看護）」および「政策医療看護学実習（がん看護実習 A / B）」を履修した看護学生 93 名。しかし、調査項目により対象者が異なり、講義に関する調査は講義受講者 93 名（全員必修科目）であるが、がん看護実習 A に関する調査はがん看護実習 A 受講者 86 名（助産選択者以外必修科目）、がん看護実習 B に関する調査はがん看護実習 B 受講者 58 名（選択科目）である。

##### 2) 調査方法

質問紙調査法。

##### 3) 調査内容

授業評価・実習評価に関して研究者が検討し作成した 21 項目について、「まったくそう思わない」を 1 点から「大いにそう思う」を 4 点の 4 段階のリッカートスケールを用いて調査した。

##### 4) 分析方法

SPSS Ver.15 を用いて、「実習目標の達成度と関連する項目」「実習の満足度と関連する項目」に分け統計解析を行った。2 群間の比較はマンホイットニーの U 検定を実施し、有意水準を 0.001 未満とした。

##### (1) 実習目標の達成度と関連する項目

「実習目標が達成された」という設問について、「まったくそう思わない」「そう思わない」と回答した群を『実習目標が達成できなかった群』とし、「そう思う」「大いにそ

う思う」と回答した群を『実習目標が達成できた群』として比較した。

##### (2) 実習の満足度と関連する項目

「実習に満足した」という設問について、「まったくそう思わない」「そう思わない」と回答した群を『実習に満足しなかった群』とし、「そう思う」「大いにそう思う」と回答した群を『実習に満足した群』として比較した。

#### 2. 面接調査

##### 1) 対象者

A 大学において「高度先駆的医療看護（がん看護）」および「政策医療看護学実習（がん看護実習 A / B）」を履修し、研究協力が得られた看護学生 10 名。

##### 2) 調査方法

質問紙を用いた半構成的面接法。

##### 3) 調査内容

①「高度先駆的医療看護（がん看護）」の講義のなかで、「政策医療看護学実習（がん看護実習 A / B）」において役立った知識・技術・患者への接し方

②「政策医療看護学実習（がん看護実習 A / B）」において困難であった経験内容とその対処法

③「政策医療看護学実習（がん看護実習 A / B）」で実習目標を達成するために必要と考えるサポート内容

##### 4) 分析方法

①面接の録音内容から逐語録を作成した。

②逐語録を精読し、「役立った知識・技術・患者への接し方」「困難であった経験内容とその対処法」「実習目標を達成するために必要と考えるサポート内容」に関連した内容を示す文章を抽出し、意味内容を損なわないように簡潔な文章に表現し、コードとした。

③簡潔に表現した文章から、含まれる意味が明確になるように一文のまとまりとした。

④意味内容の類似性からコードをまとめたものをサブカテゴリー、カテゴリーとし、カテゴリーおよびサブカテゴリーを示す言葉でネーミングした。

なお、分析の妥当性は、複数の共同研究者間の検討を通して確保した。

##### 5) 研究期間

2006 年 12 月～2007 年 3 月。

### Ⅴ. 倫理的配慮

研究参加の有無が、学生という立場に今後、影響を及ぼす可能性があると考えた場合、研究参加への任意性が失われる恐れがある。これを防ぐため、以下の内容の配慮を行った。

質問紙調査は、研究の意義・目的、研究方法、自由意志

に基づく同意と撤回権，個人情報の保護，研究成果の取り扱いについて説明した文章とともに質問紙を配布し，返信をもって同意とみなした。質問紙の回収は，研究参加の有無が当研究以外の学校関係者に知られることがないように返信用切手を貼付した封筒を調査票とともに配布し，郵送返信方法を採用した。なお，学生の便宜を考慮し，事務室にも返信ボックスを設置した。

面接調査は，研究対象者に，研究の意義・目的，研究方法，対象者が被る可能性がある不利益，自由意志に基づく同意と撤回権，個人情報の保護，研究成果の取り扱いについて，口頭と文書で説明し，文書にて同意を得た。また面接時に録音を行う場合は，改めて対象者に説明し同意を得た。

なお，本研究は A 大学倫理委員会の承認を得て実施したものである。

## VI. 結果

### 1. 対象者の概要

質問紙調査では，93 名に質問紙を配布し 52 部回収した

(回収率 55.9%)。回答者のうち，講義受講者は 52 名 (55.9%)，がん看護実習 A 受講者 47 名 (54.7%)，がん看護実習 B 受講者 37 名 (63.8%) であった。

また，面接調査は，10 名の学生を対象として研究メンバーの中の 1 名がすべての学生にそれぞれ 1 回面接を実施した。10 名のうち，5 名はがん看護実習 B を受講していなかった。

## 2. 質問紙調査

### 1) 調査の概要 (表 2)

質問紙調査による結果は表 2 に示すとおり，講義に関しては，「授業の内容」「授業内容が実習に生かされた」において 80% 以上が肯定的な回答であったが，「目標のわかりやすさ」「授業の方法」「資料のわかりやすさ」においては，30% 以上が否定的な回答であった。

がん看護実習 A に関しては，「実習環境」「病棟の実習指導者からの確かな指導を受けることができた」「がん患者の特徴の理解」「がん看護の特徴の理解」において 80% 以上が肯定的な回答をしていた。がん看護実習 B に関して

表 2 政策医療看護学「がん看護」の履修に関する学生の認識

| 項目                             | まったくそう思わない /<br>そう思わない |       | そう思う /<br>大いにそう思う |       | 平均値  |
|--------------------------------|------------------------|-------|-------------------|-------|------|
|                                | 人 (%)                  | 人 (%) | 人 (%)             | 人 (%) |      |
| <b>【講義：高度先駆的医療（がん看護）必修科目】</b>  |                        |       |                   |       | n=52 |
| 1. 学習の目標がわかりやすかった              | 22 (42.3%)             |       | 30 (57.7%)        |       | 2.7  |
| 2. 授業の内容がわかりやすかった              | 9 (17.3%)              |       | 43 (82.7%)        |       | 3.0  |
| 3. 授業内容が実習に生かされた               | 7 (14.4%)              |       | 40 (85.1%)        |       | 3.1  |
| 4. 授業の方法がよかった                  | 16 (30.8%)             |       | 36 (69.2%)        |       | 2.7  |
| 5. 資料がわかりやすかった                 | 17 (32.7%)             |       | 35 (67.3%)        |       | 2.7  |
| <b>【がん看護実習 A 助産選択者以外必修科目】</b>  |                        |       |                   |       | n=47 |
| 1. 実習の目標が達成された                 | 20 (42.6%)             |       | 27 (57.4%)        |       | 2.6  |
| 2. 実習は満足した                     | 16 (34.0%)             |       | 31 (66.0%)        |       | 3.0  |
| 3. 実習の目標がわかりやすかった              | 26 (55.3%)             |       | 21 (44.7%)        |       | 2.4  |
| 4. 実習場所の環境がよかった                | 2 ( 4.3%)              |       | 45 (95.7%)        |       | 3.4  |
| 5. 臨床教員・学内教官からの確かな指導を受けることができた | 11 (23.4%)             |       | 36 (76.6%)        |       | 3.1  |
| 6. 病棟の実習指導者からの確かな指導を受けることができた  | 7 (14.9%)              |       | 40 (85.1%)        |       | 3.2  |
| 7. 実習施設の担っている役割がわかった           | 15 (31.9%)             |       | 32 (68.1%)        |       | 2.9  |
| 8. がん患者の特徴がわかった                | 3 ( 6.4%)              |       | 44 (93.6%)        |       | 3.2  |
| 9. がん看護の特徴がわかった                | 8 (17.0%)              |       | 39 (83.0%)        |       | 3.1  |
| <b>【実習：がん看護実習 B 選択科目】</b>      |                        |       |                   |       | n=34 |
| 1. 実習の目標が達成された                 | 5 (14.7%)              |       | 29 (85.3%)        |       | 3.0  |
| 2. 実習は満足した                     | 5 (14.7%)              |       | 29 (85.3%)        |       | 3.4  |
| 3. 実習の目標がわかりやすかった              | 8 (23.5%)              |       | 26 (76.5%)        |       | 2.9  |
| 4. 実習場所の環境がよかった                | 2 ( 5.9%)              |       | 32 (94.1%)        |       | 3.3  |
| 5. 臨床教員・学内教官からの確かな指導を受けることができた | 2 ( 5.9%)              |       | 32 (94.1%)        |       | 3.4  |
| 6. 病棟の実習指導者からの確かな指導を受けることができた  | 5 (14.7%)              |       | 29 (85.3%)        |       | 3.3  |
| 7. 実習施設の担っている役割がわかった           | 7 (20.6%)              |       | 27 (79.4%)        |       | 2.9  |

は、全体を通してほぼ80%以上が肯定的な回答であった。

## 2) 実習目標の達成に影響する項目(表3)

『実習目標が達成できた群』は、がん看護実習Aは27名(57.4%)、がん看護実習Bは29名(85.3%)であった。

がん看護実習Aにおいては、『実習目標が達成できた群』は、実習における「実習目標のわかりやすさ」「実習の満

足」において『実習目標が達成できなかった群』よりも有意に平均点が高かった。また、学内授業における「学習目標のわかりやすさ」「臨床教員・学内教員からの的確な指導」「がん看護の特徴の理解」「がん患者の特徴がわかった」の項目において、『実習目標が達成できた群』は『実習目標が達成できなかった群』よりも肯定的な回答が多い

表3 実習目標の達成の有無と実習評価

| 【がん看護実習 A】                     | 実習目標が達成<br>できなかった群<br>(n=20) |   | 実習目標が<br>達成できた群<br>(n=27) |   | 平均の差<br>b-a | p        |
|--------------------------------|------------------------------|---|---------------------------|---|-------------|----------|
|                                | 平均値                          | a | 平均値                       | b |             |          |
|                                | <b>【講義】</b>                  |   |                           |   |             |          |
| 1. 学習の目標がわかりやすかった              | 2.35                         |   | 2.89                      |   | 0.54        | 0.008    |
| 2. 授業内容がわかりやすかった               | 2.88                         |   | 3.00                      |   | 0.12        | 0.316    |
| 3. 授業内容が実習に生かされた               | 2.98                         |   | 3.15                      |   | 0.17        | 0.322    |
| 4. 授業の方法がよかった                  | 2.68                         |   | 2.80                      |   | 0.12        | 0.407    |
| 5. 資料がわかりやすかった                 | 2.80                         |   | 2.70                      |   | -0.10       | 0.436    |
| <b>【実習】</b>                    |                              |   |                           |   |             |          |
| 1. 実習目標がわかりやすかった               | 1.80                         |   | 2.81                      |   | 1.01        | 0.001未満* |
| 2. 実習場所の環境がよかった                | 3.25                         |   | 3.48                      |   | 0.23        | 0.226    |
| 3. 臨床教員・学内教官からの的確な指導を受けることができた | 2.70                         |   | 3.41                      |   | 0.71        | 0.002    |
| 4. 病棟の実習指導者からの的確な指導を受けることができた  | 3.03                         |   | 3.35                      |   | 0.32        | 0.102    |
| 5. 実習病院の担っている役割がわかった           | 2.72                         |   | 2.99                      |   | 0.27        | 0.146    |
| 6. がん患者の特徴がわかった                | 2.95                         |   | 3.30                      |   | 0.35        | 0.025    |
| 7. がん看護の特徴がわかった                | 2.75                         |   | 3.30                      |   | 0.55        | 0.004    |
| 8. 実習に満足した                     | 2.35                         |   | 3.41                      |   | 1.06        | 0.001未満* |
| 【がん看護実習 B】                     | 実習目標が達成<br>できなかった群<br>(n=5)  |   | 実習目標が<br>達成できた群<br>(n=29) |   | 平均の差<br>b-a | p        |
|                                | 平均値                          | a | 平均値                       | b |             |          |
|                                | <b>【講義】</b>                  |   |                           |   |             |          |
| 1. 学習の目標がわかりやすかった              | 2.00                         |   | 2.90                      |   | 0.90        | 0.012    |
| 2. 授業内容がわかりやすかった               | 2.50                         |   | 3.07                      |   | 0.57        | 0.003    |
| 3. 授業内容が実習に生かされた               | 2.90                         |   | 3.14                      |   | 0.24        | 0.299    |
| 4. 授業の方法がよかった                  | 2.60                         |   | 2.84                      |   | 0.24        | 0.362    |
| 5. 資料がわかりやすかった                 | 2.60                         |   | 2.83                      |   | 0.23        | 0.390    |
| <b>【実習】</b>                    |                              |   |                           |   |             |          |
| 1. 実習目標がわかりやすかった               | 2.20                         |   | 3.00                      |   | 0.80        | 0.037    |
| 2. 実習場所の環境がよかった                | 3.20                         |   | 3.34                      |   | 0.14        | 0.740    |
| 3. 臨床教員・学内教官からの的確な指導を受けることができた | 3.40                         |   | 3.41                      |   | 0.01        | 0.827    |
| 4. 病棟の実習指導者からの的確な指導を受けることができた  | 3.10                         |   | 3.34                      |   | 0.24        | 0.475    |
| 5. 実習病院の担っている役割がわかった           | 2.80                         |   | 2.90                      |   | 0.10        | 0.738    |
| 6. 実習に満足した                     | 2.80                         |   | 3.52                      |   | 0.72        | 0.121    |

マンホイットニーのU検定

\* : p < 0.001

傾向にあった。

がん看護実習 B においては、学内授業の「学習目標のわかりやすさ」「授業内容のわかりやすさ」「実習目標のわかりやすさ」の項目において、『実習目標が達成できた群』は『実習目標が達成できなかった群』よりも肯定的な回答が多い傾向にあった。

### 3) 実習の満足度に影響する項目(表 4)

実習の満足度について、肯定的な回答を示した『実習に

満足した群』は、がん看護実習 A は 31 名 (66.0%)、がん看護実習 B は 29 名 (85.3%) であった。

がん看護実習 A においては、『実習に満足した群』は、学内授業における「実習目標の達成」項目において『実習に満足しない群』よりも有意に平均点が高かった。また、実習における「実習目標のわかりやすさ」「実習場所の環境」「臨床教員・学内教員からの的確な指導」「実習施設の担っている役割の理解」「がん患者の特徴の理解」「がん看

表 4 実習に対する満足と実習評価

| 【がん看護実習 A】                     | 実習に満足<br>しなかった群<br>(n=16) | 実習に満足<br>した群<br>(n=31) | 平均の差  | p        |
|--------------------------------|---------------------------|------------------------|-------|----------|
|                                | 平均値 a                     | 平均値 b                  | b-a   |          |
|                                | <b>【講義】</b>               |                        |       |          |
| 1. 学習の目標がわかりやすかった              | 2.50                      | 2.74                   | 0.24  | 0.278    |
| 2. 授業内容がわかりやすかった               | 2.97                      | 2.94                   | -0.03 | 0.915    |
| 3. 授業内容が実習に生かされた               | 3.03                      | 3.10                   | 0.07  | 0.683    |
| 4. 授業の方法がよかった                  | 2.72                      | 2.77                   | 0.05  | 0.794    |
| 5. 資料がわかりやすかった                 | 2.81                      | 2.71                   | -0.10 | 0.440    |
| <b>【実習】</b>                    |                           |                        |       |          |
| 1. 実習目標が達成できた                  | 2.05                      | 2.87                   | 0.82  | 0.001未満* |
| 2. 実習の目標がわかりやすかった              | 1.81                      | 2.68                   | 0.87  | 0.001    |
| 3. 実習場所の環境がよかった                | 3.13                      | 3.52                   | 0.39  | 0.039    |
| 4. 臨床教員・学内教官からの的確な指導を受けることができた | 2.63                      | 3.35                   | 0.72  | 0.003    |
| 5. 病棟の実習指導者からの的確な指導を受けることができた  | 2.97                      | 3.34                   | 0.37  | 0.066    |
| 6. 実習病院の担っている役割がわかった           | 2.58                      | 3.03                   | 0.45  | 0.015    |
| 7. がん患者の特徴がわかった                | 2.88                      | 3.29                   | 0.41  | 0.010    |
| 8. がん看護の特徴がわかった                | 2.69                      | 3.26                   | 0.57  | 0.004    |
| 【がん看護実習 B】                     | 実習に満足<br>しなかった群<br>(n=5)  | 実習に満足<br>した群<br>(n=29) | 平均の差  | p        |
|                                | 平均値 a                     | 平均値 b                  | b-a   |          |
|                                | <b>【講義】</b>               |                        |       |          |
| 1. 学習の目標がわかりやすかった              | 2.00                      | 2.90                   | 0.90  | 0.012    |
| 2. 授業内容がわかりやすかった               | 2.50                      | 3.07                   | 0.57  | 0.003    |
| 3. 授業内容が実習に生かされた               | 2.90                      | 3.14                   | 0.24  | 0.299    |
| 4. 授業の方法がよかった                  | 2.60                      | 2.84                   | 0.24  | 0.362    |
| 5. 資料がわかりやすかった                 | 2.60                      | 2.83                   | 0.23  | 0.390    |
| <b>【実習】</b>                    |                           |                        |       |          |
| 1. 実習目標が達成できた                  | 2.40                      | 3.11                   | 0.71  | 0.068    |
| 2. 実習の目標がわかりやすかった              | 2.40                      | 2.97                   | 0.57  | 0.170    |
| 3. 実習場所の環境がよかった                | 3.00                      | 3.38                   | 0.38  | 0.223    |
| 4. 臨床教員・学内教官からの的確な指導を受けることができた | 2.80                      | 3.52                   | 0.72  | 0.043    |
| 5. 病棟の実習指導者からの的確な指導を受けることができた  | 2.90                      | 3.38                   | 0.48  | 0.138    |
| 6. 実習病院の担っている役割がわかった           | 2.80                      | 2.90                   | 0.10  | 0.738    |

マンホイットニーの U 検定

\* : p < 0.001

護の特徴の理解」の項目において、『実習目標が達成できた群』は『実習目標が達成できなかった群』よりも肯定的な回答が多い傾向にあった。

がん看護実習 B においては、学内授業における「学習目標のわかりやすさ」「授業内容のわかりやすさ」、実習における「臨床教員・学内教員からの確かな指導を受けることができた」において、『実習目標が達成できた群』は『実習目標が達成できなかった群』よりも肯定的な回答が多い傾向にあった。

### 3. 面接調査の結果

結果のなかで、カテゴリは【 】, サブカテゴリは『 』, コードは「 」で示す。

#### 1) がん看護実習において感じた困難(表 5)

分析の結果、学生が感じた困難は 68 コード抽出され、最終的に、【がん患者の理解や患者との接し方】【実習方法】【学生の知識不足】【政策医療に関する理解】【実習指導者とのコミュニケーション】など7つのカテゴリにまとめられた。

表 5 がん看護実習において学生が感じた困難

| カテゴリ                 | サブカテゴリ                                | コード                                       | 数                          |
|----------------------|---------------------------------------|---|----------------------------|
| がん患者の理解や患者との接し方 (23) | 患者との接し方・コミュニケーション (18)                | 苦痛の強い患者のもとへ行くことができなかった                    | 7                          |
|                      |                                       | 苦痛のある患者への声かけに悩んだ                          | 6                          |
|                      |                                       | 寡黙な患者への接し方に困った                            | 1                          |
|                      |                                       | 短時間での患者との接し方に困った                          | 1                          |
|                      |                                       | 症状が複雑な患者への接し方がわからなかった                     | 1                          |
|                      |                                       | うつ患者の対応に困った                               | 1                          |
|                      |                                       | 告知後の患者にどのような言葉がけをすればいいか困った                | 1                          |
|                      | 患者理解 (3)                              | まれな種類のがん腫であり資料が不足していた                     | 1                          |
|                      |                                       | 複数の異なる臓器の患者を受け持ち、理解が困難であった                | 1                          |
|                      |                                       | 複雑な副作用を有している患者の理解が困難であった                  | 1                          |
|                      | 苦痛が強い患者に対する自己の役割 (2)                  | 自分は苦痛の強い患者に役割を果たせないと感じた                   | 1                          |
|                      |                                       | つらくて何もしてほしくない患者を担当して、自分の役割が見出せなかった        | 1                          |
|                      | 実習方法 (19)                             | 効果的なカンファレンスのもち方 (9)                       | カンファレンスで何が求められているのかわからなかった |
| カンファレンスで具体的な助言が欲しかった |                                       |   | 5                          |
| カンファレンスが一般的だった       |                                       |   | 1                          |
| 記録の書き方 (8)           |                                       | 記録に何を書いているのか悩んだ                           | 6                          |
|                      |                                       | 記録の時間が少なかった                               | 1                          |
|                      |                                       | 記録の内容が適切であったか、病棟の実習指導者からフィードバックが欲しかった     | 1                          |
| 効果的なグループワークのもち方 (1)  |                                       | グループメンバーの協力が得られなかった                       | 1                          |
| 実習配置 (1)             | 病棟に一人だけの実習であり、相談できる友人もなく、モチベーションが下がった | 1   |                            |
| 学生の知識不足 (11)         | 学生の知識不足 (11)                          | 4年生の現在における知識不足に焦った                        | 10                         |
|                      |                                       | 知識不足で効果的な患者指導ができなかった                      | 1                          |
| 政策医療に関する理解 (8)       | 政策医療に関する理解 (8)                        | 実習における経験からのみでは、政策医療看護とは何かということが十分理解できなかった | 7                          |
|                      |                                       | 他の領域の実習を終了後、複数の実習を通して政策医療について理解できた        | 1                          |
| 体調管理 (3)             | 体調管理 (3)                              | 体調を壊し、休めばいいかどうかもわからなかった                   | 3                          |
| 宿泊設備 (2)             | 宿泊設備へのストレス (2)                        | 寮での生活にテレビがなくストレスだった                       | 1                          |
|                      |                                       | 宿舎棟が他の学生と異なり不便だった                         | 1                          |
| 実習指導者とのコミュニケーション (2) | 実習指導者とのコミュニケーション (2)                  | どのタイミングに声をかけていいのか困った                      | 1                          |
|                      |                                       | 実習指導者により方針が異なった                           | 1                          |

学生は、『苦痛が強い患者に対する自己の役割』に悩むなど、患者とのコミュニケーションと同時に、「どのタイミングで声をかけていいのか困った」など、『実習指導者とのコミュニケーション』にも苦慮していた。また、A大学の特徴とする『政策医療に関する理解』についても、そ

の理解が困難であったことが明らかとなった。

2) **がん看護実習において学習を効果的にした要因**(表6)  
分析の結果、学習を効果的にした要因は56コード抽出され、最終的に、【臨床における効果的な指導】【効果的な学習方法】【自らの学習意欲向上】の3つのカテゴリーに

表6 がん看護実習において学習を効果的にしていた要因

| カテゴリー                        | サブカテゴリー                            | コード  | 数                                  |
|------------------------------|------------------------------------|--|------------------------------------|
| 臨床における効果的な指導 (18)            | ともに考える指導 (5)                       | 実習指導者・教員が一緒に考えてくれた                             | 5                                  |
|                              |                                    | 実習中に指導してもらったことで学べた                             | 1                                  |
|                              | タイムリーな指導 (3)                       | 質問にすぐに答えてもらった                                  | 1                                  |
|                              |                                    | 臨床で受けた講義により理解が深まった                             | 1                                  |
|                              | わかりやすい指導 (2)                       | 指導がわかりやすかった                                    | 2                                  |
|                              | 専門的な指導 (1)                         | 専門的な指導を受けた                                     | 1                                  |
|                              | 事例に沿った適切な助言・指導 (7)                 | 患者の言動・状況に合わせて実習指導者・教員から接し方について助言を受けた           | 5                                  |
|                              |                                    | 病気を抱えながら生活する人を支えるとはどういうことなのか、具体的に説明がありわかった     | 1                                  |
|                              |                                    | 患者の症状の機序や状態を考慮してケア方法を検討することが重要であると指導を受けた       | 1                                  |
|                              | 効果的な学習方法 (26)                      | 講義を通じた事前準備 (7)                                 | 授業を通してがん患者の特徴、対応する姿勢について理解し、準備ができた |
| 授業資料が実習において活用でき、授業と実習が結びついた  |                                    |  | 1                                  |
| 授業において告知後の看護について学び、心の準備をしていた |                                    |  | 1                                  |
| がん治療に関する知識をもって実習に望んだ         |                                    |  | 1                                  |
| 友人との相談・討議 (5)                |                                    | 友人と相談した  | 2                                  |
|                              |                                    | 実習中に学生同士で同じテーマで討議できたことで理解が深まった                 | 3                                  |
| カンファレンス (5)                  |                                    | カンファレンスで各領域の学びを共有できてよかった                       | 5                                  |
| 患者との日々のかかわりのなかでの学び (4)       |                                    | 患者の重篤な状態を理解し、何もしてほしくない患者に対して見守ることも重要であることを認識した | 2                                  |
|                              |                                    | 感情移入しすぎずに患者とかかわった                              | 1                                  |
|                              |                                    | 日々かかわるなかで話しやすくなった                              | 1                                  |
| 実習記録による振り返り (3)              | 記録を書くことで考え方が整理できた                  | 1  |                                    |
|                              | 関連図を書くことで自分の考えがまとまった               | 2  |                                    |
| 自己学習 (2)                     | インターネット、実習病院の資料などを用い、具体的に自分で調べた    | 1  |                                    |
|                              | 自分で調べた                             | 1  |                                    |
| 自らの学習意欲向上 (12)               | 看護師の姿勢による学習意欲の向上 (7)               | モデルとなる看護師に感銘を受けた(患者の理解が深く、広い)                  | 4                                  |
|                              |                                    | モデルとなる看護師に指導を受け、看護師になりたい気持ちが高まった               | 1                                  |
|                              |                                    | 知識豊富な実習指導者に感心した                                | 1                                  |
|                              |                                    | 看護師が丁寧に、相手を尊重し接している様子が伝わってきた                   | 1                                  |
|                              | がん患者の心理過程を理解する重要性の認識 (2)           | がん看護では、がん患者の心理面を自分が分析できることが重要だと思った             | 1                                  |
|                              |                                    | がん患者がたどる心理過程を理解することで、経過に合った声かけ、介入、指導ができた       | 1                                  |
|                              | 実習指導者・教員の理解 (2)                    | 実習指導者・教員が自分のことを理解してくれていたのがわかった                 | 2                                  |
| 知識豊富な患者による学習の動機づけ (1)        | がん患者は知識が豊富なことが多く、自分自身が勉強をする必要性を感じた | 1  |                                    |



まとめられた。

臨床において「実習指導者・教員と一緒に考えてくれた」ことや「実際のモデルとなる実習指導者」によって、学生の理解が促されていた。また、学生は、「講義を通じた事前準備」や「実習記録による振り返り」など実習前後の学習によっても、学習を効果的なものとしていた。

## Ⅶ. 考 察

がん看護実習 A においては、実習目標が達成できたと認識している学生は 60% に満たず、また、満足している学生も 66% と、いずれも高いとはいえない。これは、がん看護実習 A に関しては実習目標がわかりにくいと回答していた学生が過半数を占め、何を目標にする実習であるか明確に認識できなかったことが一因として考えられる。

実習目標にはがん看護の特徴の理解が重要な位置づけを占めるが、がん看護実習 A において、80% 以上の学生が「がん看護の特徴がわかった」、90% 以上の学生が「がん患者の特徴がわかった」と回答しているにもかかわらず、目標達成感などを低く感じていることが示されている。この結果から、実習目標の達成感や満足感にはがん看護や患者の特徴に関する理解以外の要因が関連していたことが考えられる。また、これらを理解したことが実習目標の達成や満足感について低く評価する要因になったとも考えられる。がん患者と接することで「苦痛の強い患者」「告知後の患者」「複雑な病態の患者」などといったがん患者の特徴を理解し、対応の困難感を実感し、目標の達成感・満足感をもてなかったことが考えられる。臨地実習における学生の達成感に影響を与える要因として、患者とのかかわりが特に影響すると報告されている（原田，2006）ように、患者とのかかわりに関する課題が示唆されたと考えられる。目標達成や満足感の高い学生は、臨床教員・学内教員からの確かな指導を受けることができた傾向が示されており、実習中の教員との効果的なかかわりのなかで困難を解決できていたことが示唆される。

がん看護実習は、「政策医療看護学」の一部であり、必修科目であるがん看護実習 A における実習目標として「がんの政策医療における看護の特徴について学ぶ」ことが設定されている。しかし、がん看護実習における困難の内容として、政策医療を担っている「実習施設の担っている役割」について、30% の学生が実習において理解が不十分であったと認識していることや、「政策医療に関する理解」の不十分さを感じていた学生が多かったことなどから、「政策医療看護」に関連する不十分な理解が、「実習目標達成」の認識を低くさせていた要因であることが考えられる。実習施設見学などを通して施設の機能は学んだが、実習の中心は受け持ち患者の看護展開である。今後は、学生

のレディネスや実習期間などを考慮し、実習目標や実習方法について検討をしていきたい。

実習において、実習目標が達成できたと認識している学生は、学内授業および実習の目標を理解して学び、実習の成果としてがん患者やがん看護の特徴を理解し、実習への満足度も高い傾向がみられた。学内における授業から学生の興味を高め、実習に臨むことが重要であることが本結果から示唆されたと考えられる。

また、がん看護実習 B は、選択科目であるために「がん看護」を学びたいと主体的に取り組んだ学生が多く、一般的に高い得点を示したことも考えられる。

面接結果から、学生の困難感とは患者との接し方・コミュニケーションに関する事柄が最も多かった。がん患者は終末期でなくとも、治療自体が侵襲的であり、多くの有害事象を乗り越えながら闘病している患者が多い。そのような場面に直面し、つらい患者を目の当たりにして患者のもとへ行けなかった、何を話したらいいのかわからなくなった学生が多くいたことが示されている。臨地実習におけるコミュニケーションの困難感を分析している研究は多く（和泉，山下，柳川，2001；高橋，鹿村，須藤，2005；山下，和泉，柳川，2001），多くの学生がコミュニケーションの取り方がわからないと感じている状況が明らかにされている。特に終末期患者を受け持った看護学実習に関する研究報告（星野，大森，古川，2004）においては、「病室に行きづらかったり、訴えをきくのはつらい」など、患者の対応に脅威を感じている学生像が報告されているが、本研究においても同様の結果が示された。

臨地実習においては、学生のコミュニケーションに関する困難感とともに、コミュニケーション技術の未熟さが指摘されており（岩崎，有岡，赤星，太田，1999），がんの臨床においては、特に心理的に多く課題を有する患者と接することを想定し、がん患者とのコミュニケーションに関する講義・演習を実施している。研究結果より実習において患者への対応やコミュニケーションに関する課題は多く示されたものの、授業を通してがん患者の特徴、対応する姿勢について理解することが効果的な実習に結びついており（表 6），今後もコミュニケーションに関連した学内授業の必要性が示唆された。

学内授業に基づいて効果的な実習を実施するためには、臨床における指導体制が重要である。がん看護実習 A / B とも臨床教員や学内教員からの的確な指導があったと認識している学生は、実習満足度が高い傾向であった。面接による調査においても臨床における効果的な指導が実習を効果的なものにしてきたと実感しており、患者のその時々々の言動に対して、一緒に考えてくれたり具体的に指導してもらったことなど、タイムリーな指導が効果的であったと示している。また、モデルとなる看護師とかかわれたこと

で学習効果を上げていたなど、臨床における教員や臨床の看護師とのかかわりのなかから多くのことを学んでいた結果が示された。

## Ⅷ. 結 論

- ①政策医療看護学「がん看護」における教育評価を実施した結果、講義に関しては「授業の内容のわかりやすさ」「授業内容が実習に生かされた」に関して80%以上が肯定的な回答であったが、目標や方法など30%以上が否定的な回答であり、学内授業について検討の余地が示唆された。
- ②『実習目標が達成できた群』は、がん看護実習Aは27名(57.4%)、がん看護実習Bは29名(85.3%)であった。がん看護実習Aにおいて80%以上の学生ががん患者やがん看護の特徴については理解しているが、目標達成困難であった要因として、患者とのコミュニケーション、政策医療看護に関する理解が不十分であったことなどが考えられた。
- ③『実習に満足した群』は、がん看護実習Aは31名(66.0%)であり、がん看護実習Bは29名(85.3%)であった。がん看護実習Aにおいてはがん看護実習Bよりも満足度が低かったが、『実習目標が達成できた群』は満足度も高いことから、実習目標達成に関する検討が重要であることが示唆された。
- ④学生は【がん患者の理解や患者との接し方】【実習方法】といった実習上の困難を抱えていたが、【臨床における効果的な指導】【効果的な学習方法】などによって、学習を効果的なものにしていった。今後は効果的であると表された内容を強化していききたい。

## Ⅸ. おわりに

看護学生の実習目標の達成や学生の満足度に影響する事柄と、実習目標を達成するために経験した困難および効果的であった要因を明らかにし、「高度先駆的医療看護」「政策医療看護学実習(がん看護実習A/B)」の教育プログラムを再考し、改善策への示唆を得るために、A大学の看護学生に質問紙調査、面接調査を実施した。

がん看護実習Aでは、実習目標の達成、実習の満足度

の双方で、「実習目標のわかりやすさ」「臨床教員・学内教員からの的確な指導」において、『実習目標が達成できた群』が『実習目標が達成できなかった群』より有意に高かった。また、学生は【がん患者の理解や患者との接し方】【実習方法】といった実習上の困難を抱えていたが、【臨床における効果的な指導】【効果的な学習方法】などによって、学習を効果的なものにしていった。

本研究はA大学のカリキュラムに特化しているために、「がん看護学教育」としての一般化は困難である。

これらの結果をもとに、A大学における「がん看護」に関する教育プログラムを再考していききたい。

## ■文 献

- エップス美佳(2002). アメリカの看護婦試験にみるがん看護. 臨床看護, 28(5), 678-683.
- 原田秀子(2006). 臨地実習における学生の達成感に影響する要因の分析(第3報). 山口県立大学看護学部紀要, 10, 29-37.
- 星野礼子, 大森美津子, 古川文子(2004). 終末期患者を受け持った学生のストレス・コーピング. 香川県立保健医療大学紀要, 1, 63-73.
- 堀田美鈴, 浅井美千代, 白鳥孝子, 長井栄子, 松本佳子, 手塚洋子(2005). 学生が成人看護学実習で受持つ患者の高齢化に伴う学習内容の変化と今後の教育課題. 千葉県立衛生短期大学紀要, 23(2), 25-33.
- 岩崎仁美, 有岡八重子, 赤星誠美, 太田正子(1999). 初回臨床実習における看護学生のコミュニケーション技術の実態とその指導の方向性—プロセスレコードの分析より. 九州国立看護教育紀要, 2(1), 33-39.
- 和泉晴美, 山下満子, 柳川育子(2001). 臨地実習における学生の不安に関する研究(第1報). 京都市立看護短期大学紀要, 26, 1-9.
- 高橋ゆかり, 鹿村眞理子, 須藤絹子(2005). 看護学生の臨地実習におけるコミュニケーションの良否に関わる要因. 群馬パース大学紀要, 1, 19-26.
- 山下満子, 和泉晴美, 柳川育子(2001). 臨地実習における学生の不安に関する研究(第2報). 京都市立看護短期大学紀要, 26, 11-18.

---

**【要旨】** 本研究の目的は、看護学生の実習目標の達成や学生の満足度に影響する事柄と、実習目標を達成するために経験した困難および効果的であった要因を明らかにし、「高度先駆的医療看護」「政策医療看護学実習(がん看護A/B)」の教育プログラムを再考し、改善策に関する示唆を得ることである。A大学の看護学生93名に質問紙調査、10名に面接調査を実施し、以下の結果を得た。がん看護実習Aでは、実習目標の達成において「実習目標のわかりやすさ」が『実習目標が達成できた群』は『実習目標が達成できなかった群』より有意に高く、実習目標の達成度の高い群は有意に実習の満足度も高かった。また、学生は【がん患者の理解や患者との接し方】【実習方法】といった実習上の困難を抱えていたが、【臨床における効果的な指導】【効果的な学習方法】などによって、学習を効果的なものにしていった。

---